

第 6 5 回北海道高等学校登山選手権大会講評

2 0 2 6 7.6

体力

全体を通して、多くのチームが最後までよく歩けており、日頃のトレーニングの成果が感じられた。一方で、斜里岳の下二股以降の沢地形を登る区間では、歩行ペースが一定にならず急登・悪路にも対応できる持久力と脚力を、今後も継続して養っていくことが必要と感じた。また、学校によってはチーム内で間隔が大きく空いてしまう場面も見受けられた。登山は個人競技ではなくチームで行動する競技です。常に 4 人で行動することを意識し、お互いの体調や歩くペースを確認しながら、安全かつ安定した行動ができるチームづくりを目指してほしいです。

定点装備

以下の 1 2 項目を審査しました。

1. 雨具上下と防寒着 2. 熊撃退スプレー 3. 防寒シート 4. 予備食
5. ペンチ 6. 針金 7. 虫刺され薬 8. 体温計
9. ヘッドランプ 10. 呼笛 11. 三角巾 12. 消毒液

1. 雨具上下と防寒着は、天候の急変に対応するための大切な装備です。登山部報にあるように、「防寒着はウール素材か羽毛素材、フリース素材等厚みのある保温性の高いもので、長袖のもの」を用意してください。今回は防寒着を忘れた選手はいませんでした。防水処理をしていないケースがありました。防寒着が濡れてしまうと、保温性能が下がってしまいます。水に濡れないようにジップロック等に入れてください。特にダウンは濡れると保温性能が著しく損なわれますので、注意が必要です。

9. ヘッドランプには絶縁をしてください。スイッチのホールド機能も可です。絶縁処理がされていないために減点されたケースがありました。また、ヘッドランプをテント内に置いてきたため、取りに行こうとした選手もいましたが、日帰りの予定であってもヘッドランプは必ず携帯してください。下山が遅れた場合、ヘッドランプの明かりを頼りに下山することになります。

チェック項目は登山部報と『採点基準』の備考欄から出されています。今一度確認しておいてください。

設営

テントの固定について、ペグの向きが逆であったり、正しく取り扱えていないパーティーが多くみられた。

また、それぞれのテントについてメーカーによって扱い方が異なるが、明らかに違うと思われるチームが見られたので、テント設営の練習の際に、取扱い説明書はよく確認をして欲しい。

出発後のテントについて、テントファスナーが空いていたり、寝袋が散乱していたチームがあった。特に、寝袋を出しっぱなしにしておくと、濡れる可能性もあり、事故につながることもあるので注意してほしい。また、出発時にテントの張り綱が緩んだ状態のまま放置しているチームも多くみられた。こちらについても、風で飛ばされてしまう可能性もあるので、十分確認をして欲しい。

炊事

燃料の量について、2泊3日分の調理に加えて、緊急時の使用や行程の遅れによる予備食の調理が必要となった場合を考慮すると、レギュラーサイズ（250g、250 サイズ）3、4本が望ましいと言えます。2本では予備としての余裕がありません。常に一步先のリスクを予見した準備を心がけてください。

防腐処理について、生野菜を事前にカットしてきたチームがいましたが、カットした断面から水分が出るため、雑菌繁殖の温床となり傷みやすくなってしまいます。常温保存可能な野菜はその場で刻むか、事前に切る場合は塩揉みして水分を抜く、乾燥野菜を使うなどの対策を徹底しましょう。また、冷凍の場合も、冷凍しただけではザック内の熱であつという間に溶けてしまうため、外気を遮断し結露を防ぐために保冷バッグを利用することは非常に有効です。

概ねよくできていたように思われるが、火気使用時に手袋を使用していない、コンロ台を適切に使用していないチームが見られた。炊事を安全に行うために注意を払ってほしい。

ペーパーテスト

大会会場のコースに関する問題については、事前に出されているコース概況を元に出題しており、しっかり読み込んでいれば解答できたでしょう。大会山域にについて国土地理院地図を見比べながらしっかり予習するようにしてください。

地形図や読図に関する問題については、大会会場の国土地理院の1/25,000地形図を元に出題しており、普段の取り組みでやや差が付いてしまったと感じました。地形図の基本的な知識（主曲線や計曲線、磁北偏差、縮尺等）や様々な地図記号については国土地理院のHPに説明付きで載っているので、改めて確認してほしいと思います。特に地図記号は、定期的に見直しが行われており廃止されたものや新しく加わったもの、名称が変更されたものなどがあるので最新の名称で覚えるようにしてください。読図ができるように、普段の山行から紙地図を使い地点確認をする習慣をつけるようにしましょう。

気象と医療に関しては登山部報からほぼそのまま出題しています。これらの知識は山行時に自分の身を守るために必要なものばかりです。大会直前にペーパーテストのために覚えるのでは無く普段からしっかり読み込んで、安全に登山ができるように備えてください。

気象

各地の天気、高・低気圧、前線、放送等圧線とラジオの情報を書き取るだけで3.0点とれます。

ここまでは各チーム練習をして大会の望むことを期待しています。

温暖前線から停滞前線に変わる場合、変わり目がわかりやすいように記号を記入しましょう。

天気を予測できる技術は、山行の安全性に大きく関わります。是非身につけたい技術です。

計画・記録

計画書

日程は、出発地から書かなければなりません。学校から出発するのであれば、「〇〇高校出発」から書いてください。「受付開始」から始まっているパーティがあり、減点されました。最終日も同様に、「閉会式、解散」で終わるのではなく、「〇〇高校到着（、解散）」で終わるようにしてください。

大会に提出する計画書と他校と交換する計画書の2種類を用意していたパーティがありました。交換用の計画書からは個人の名前や住所等の個人情報が削除されていました。個人情報の保護が世の中に定着しつつありますので、他校に渡す計画書からは個人情報を削除して良いと思います。もちろん、大会に提出する計画書からは削除してはいけません。

記録書

主要地点は必ず書かなければなりませんが、その主要地点を書かなかったパーティがありました。特に、ゴール地点の記載がないパーティがありました。全道登山専門部のHPで公開されている情報を事前に確認してください。コース概況・自然観察・展望は、落ち着いて登っていれば気づくであろう事柄を確認しました。記載事項をまとめた用紙は各校に返却した封筒に入れましたので、確認してください。

地点確認

地点確認は雄阿寒岳6地点、斜里岳4地点の合計10地点で、下見登山をしなくても地形図で読める地点を出題しました。全体的にはできるようになってきていますが、よりしっかりと地図読みをしてから今後の山行に臨んでください。GPSが発達しているので、山で迷うことはかなり減ってきていると思いますが、谷や尾根を読む力がないとGPSをうまく使えない場面もでてきます。また、2万5000分の1の地図の等高線は10m間隔です。10mの差は1階と3階の高さの差に相当します。つまり、少しのアップダウンだと等高線に表れません。普段から地形図を読み、山行を重ね経験を積まないとできるようにはなりません。普段の山行中も常に地図を出して、今どんなところを登ってきたのか、これからどんなルートになっているのか確認してください。

マナー

- ・就寝時間後にテントの外にいたもの、テント内で活動しているチームが多数あった。睡眠時間の確保は健康管理の点から最優先事項である。他のチームへ迷惑をかける許されない行為である。
- ・大会期間中に、自動販売機の利用があった。次回注意してほしい登山部報より抜粋して載せる「必要な装備、食料等は登山大会編成時点でメンバーが所持しておくべきものであり、水汲みや、大会運営で供する場合を除き、追加することはできない」【令和7年度・登山部報・全国高等学校登山大会審査確認事例 12 その他(9) P88 より】

(文責・審査委員長 木村宣幸)